

# 2025年度 入学試験問題

# 国語

(1科目 100点 50分)

2025年2月6日(木) 1時限目実施

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この注意事項は、よく読んでください。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 次のことには十分注意してください。
  - ① 解答用紙には、受験番号を記入することを忘れないこと。
  - ② 答えはすべて解答用紙に記入すること。
  - ③ 不正行為はしないこと。

解答については、間違いのないように十分注意し、記入してください。

東奥義塾高等学校

□一

放送をよく聞いて、問いに答えなさい。  
※メモを取ってもかまいません。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

体に食べ物や薬を与える上で、多くの人が色々苦勞を重ねてきました。それならば、そのときのルールを、心にもあてはめてみる価値があるのではないでしょうか。

まずは、心にとって適切な種類の食べ物を与えることから始めましょう。体に合う合わないかは、経験からすぐに学べますから、美味しいようなブディングやパイを我慢するのはさほど難しくありません。記憶のなかでそういう食べ物と①消化不良の不快な症状が結びついていれば、それらの名前を聞いただけで、\*大黃とか酸化マグネシウムとかの胃薬を思い出さずにはいられなくなるのです。ところが、私たちが読みたがる文章の一部が消化に悪いということを理解するには、とても多くの経験が必要です。健康によくない小説を何度も食べて、そのたび必ず起こるのが、気力の衰弱、仕事へのやる気喪失、生きることへの疲れ。それらは、心を見る悪夢によるのです。

次に、健康によい食べ物を適切な量だけ与えることを心がけなくてはなりません。心の暴飲暴食、【A】読み過ぎは、危険な習慣です。消化力を弱めますし、食欲がなくなることもあるからです。ご存知の通り、パンはおいしくて、健康にもよい食べ物ですが、一度に食パンを二斤も三斤も食べようとする人はいませんよね。

ある医者が、単なる食べすぎと運動不足の患者に対してこんなことを言っていました。「栄養過剰摂取の初発症状は、脂肪組織の沈着である。」この長つたらしい大層な言葉が、増えていく脂肪の重荷を抱えた不健康な男を大いに励ましたことは、間違いありません。

現実に、いわば「心の肥満」とでも言うべきものが、存在するのではないのでしょうか。私は実際、そういう人に一度や二度会ったことがあるように思えるのです。太った心は、ゆったり歩き会話にさえついていけず、怪我が怖くて論理の垣根を飛び越えることもできず、いつも狭い議論にはまり込んで、身動きが取れません。要するに、ただ世の中をよたよた歩いていく以外何もできないほどに、無力なのです。

さて、当然ながら、健康によい物で適切な量であつても、②一度に食べる種類が多すぎるのはいけません。のどが渴いた人に、ビールカリソゴ酒、あるいは冷めた紅茶でもいいでしょう。一\*クオート差し出してみなさい。きっと感謝されるはずです。(冷めた紅茶はそれほどでもないかもしれませんが。)でも、もしあなたが、ビールをコップ一杯、りんご酒をコップ一杯、そして冷めた紅茶を一杯、熱い紅茶を一杯、コーヒーを一杯、同じように、牛乳、水、ブランデーの水割り、バターミルク、こちらを全部お盆に載せて出したら、出された彼はいったいどんな気分になるでしょうか。量を合計すれば同じクオートになるかもしれませんが、のどの渴いた干し草農家にとってそれは同じことだ

といえるでしょうか。

ここまで私たちは、心の食べ物について、種類・量・バラエティの問題を片付けました。残っているのは、食事と食事の間に適切な間隔を置かねばならないということ、そして、きちんと食べ物を消化するためには、よく噛まずに慌てて飲み込んではいけないということ。どちらも体を養うときのルールですが、心にもそのままあてはまるのです。

まずは間隔について。間隔が絶対必要という点では体と同様ですが、唯一違うのは、体が次の食事をとるまでに三〇四分間の休憩を要するのに対して、心は多くの場合三〇四分でよい、という点です。必要な間隔は、ふつう考えられているものよりずっと少ないと私は思っています。【B】、ひとつのテーマについて何時間も考え続けなければならない方に、私の経験からぜひおすすめしたいのは、休憩を取ってみるということです。例えば一時間ごとに五分だけ考えるのをやめ、その五分間は完全に気持ちを切り替えることにして、全く違うことを心に向けるのです。その短い時間の休憩で、心は驚くほどエネルギーと柔軟性を取り戻します。

次に、食べ物をよく噛むことについて。これに対応する心の作用は、単に、読んだものについて考えるということです。これは心にとつて、作者が書いた内容をただ受け身で取り入れるよりもずっと大変な仕事です。とても大変な仕事ですから、詩人の<sup>※3</sup>コールリッジが言うように、心はしばしばそんな厄介ごとを「怒りと共に拒絶」します。とても大変なので私たちはそれをすっかり放棄して、既に溜まっている消化物の上に新たな食べ物を注ぎ込み続け、とうとう心は不幸にもその洪水ですっかり沈没してしまうのです。しかし、大変な仕事ほど大きな価値がありますし、間違いなく、大きな成果を得られるものです。あるテーマについてしっかりと考える一時間は、ただ読むだけの二〇三時間とおなじぐらいの価値があるのです。

出典 ルイス キャロル 石波 杏訳『心を養う』

※1 大黄……薬草の一種。漢方として用いられる。

※2 クォート……英語圏で体積や容量を測る際に用いられる単位。1クォートは約1ℓ。

※3 コールリッジ……イギリスの詩人。

問一 空欄【A】【B】にあてはまる語句として最も適当なものを、次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。  
ただし、同じ記号を二回以上使ってははいけません。

ア つまり      イ しかし      ウ もし      エ さらに      オ だから

問二 二重傍線部「れる」と文法上異なるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人に期待される。  
イ 先生が家に来られる。  
ウ 友達に笑われる。  
エ 母に褒められる。

問三 傍線部①「消化不良の不快感症状」とありますが、その中の心に適切な種類の食べ物について次のようにまとめました。空欄に入る最も適切な内容を、本文中から二十五字でそのまま抜き出して書きなさい。

心に合わない小説ばかりを食べると、を必ず引き起こす。

問四 傍線部②「一度に食べる種類が多すぎるのはいけません。」について、その理由として合わないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 健康によい物でも、食べ合わせが悪いと消化不良を起こしてしまうから。  
イ 全種類食べることで、一種類だけ選んだ時よりも食べた量が増えるから。  
ウ 次々と食べる物を変えてしまうと、集中して味わうことができないから。  
エ 数種類食べてしまうと、お互いがお互いの良さを打ち消してしまうから。

問五 ある学級で、本文を読んだあとで話し合いをしました。次は小倉さんのグループが話し合っている様子です。

(1) X に入る適切な内容を、七字以内で考えて書きなさい。また、Y には当てはまる言葉を本文中から六字で抜き出しなさい。

長瀬 この話は X のルールが食事に例えられている文章だったね。

小倉 体によい食べ物でも、食べすぎは逆に健康に悪影響になるのは分かりやすい例だったね。

大瀧 たしかに体に置き換えて考えてみれば、読み過ぎによる Y も危険な習慣だということが分かるね。

小倉 読み過ぎだけではなくて、栄養の過剰摂取にあたる「心の肥満」にも気をつけないとね。

長瀬 そうだね。心の食べ物も体と同じように、適切な量や種類を、食べる時には食間と食べ方も心がけないとね。

大瀧 X のルールに変換すると、自分に合ったものを選び、 Z ことが大切なんだね。

(2) Z に入る適切な内容を二十五字以内で考えて書きなさい。

③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

生まれて間もなく病院の前に捨てられて施設で育ち、今は看護師として働く「わたし（山本弥生）」は、仕事帰りに犬の散歩をしている老紳士に出会う。その後、弥生の勤務する病棟にその老紳士「菊地さん」が入院する。消防団員で、近くの小学校の登下校の見守りもしている菊地さんの部屋は、差し入れの花や果物、子どもたちからのカードや折り紙であふれていた。ある日、弥生が病室に入ると、ベッドのそばには菊池さんのお孫さんがいた。

※出題の都合により、本文の一部を省略しています。

「さんしじゅうに、さんごじゅうご、さぶろくじゅうはち」

お孫さんの声が響くが、ほかの患者さんたちにも、家族や知り合いがお見舞いに来ていたので、それほどうるさくはなかった。

わたしは会釈だけして、菊地さんのベッドに近づき、菊地さんとなりのベッドの患者さんの点滴の交換を始めた。この患者さんは、こども  
ものが響く中で眠っている。昼下がりには、見舞客の来ない患者さんにとっては、一番眠い時間だ。

「三の段できたね。次は四の段。」

菊地さんが言う。まだ小さい男の子はふうつと頬ほおをふくらませた。菊地さんに似てるような気もするが、ぜんぜん似てないようにも思う。

「四の段はまだ習ってない。」

「習ってなくても、やっつけば後が楽だぞ。」

菊地さんは、わたしを見上げた。

「なあ、山本さん。」

わたしはうなずいた。【ア】

「もういいよ。」

男の子はそつぽをむいた。愛されて育っていることがよくわかる。そつぽをむいても、自分が許されることを知っているから、平気でそつぽをむけるのだ。

① わたしはこういうこどもはすきじゃない。

「じゃあ、看護師さんに教えてもらおうか。じいちゃんじゃなくて、看護師さんならいいだろう。」  
菊地さんの言葉に、男の子はぼっとわたしを見上げた。

「山本さん、わるいねえ。四の段だけ、こいつに教えてやってよ。」

菊地さんはわらっていた。わたしが断る前に、菊地さんは言った。

「さあ、いいか。しにがはち。ほら、勇樹、しさん？」

「じゆうに。」

男の子がこたえる。菊地さんにはこにこしてわたしに言った。

「じゃあ次は看護師さんだ。しし？」

②男の子がわたしを見上げる。菊地さんも枕からわたしを見上げる。  
しし。

四たす四たす四たす……

いくつ足したかわからなくなる。

とつさに指を折ろうとして、持っていた点滴の袋を落とした。プラスチックの袋は鈍い音をたてて床に落ちてひしゃげただけで、なんのかけらもとびぢらない。

「すみません。」

わたしは点滴の袋を拾いあげながら、言った。点滴をしている患者さんは眠ったままだ。

点滴の袋を落としたことを謝ったのか、九九ができないことを謝ったのか、自分でもよくわからなかった。【イ】

わたしは菊地さんの顔を見ないまま、点滴の袋をにぎりしめ、病室をとびだした。

( 中略 )

※<sub>1</sub>深夜勤で入ると、菊地さんの検査の結果が出ていた。  
大腸がんだった。

幸い、初期のがんで、※<sub>2</sub>転移は見られない。



昼間のうちに告知もすみ、おだやかに受けとめたという報告をきいて、わたしはほっとした。

「ただ、どうも眠ってらっしゃらないようなんです。」

※<sub>3</sub> 準夜勤の飯野さんが言う。

「枕元の明かりがついてますし、③ずっとなにか書いていらっしゃるようで、声をかけると大丈夫だとはおっしゃるので、※<sub>4</sub> 眠剤は出してないんですが。」

五十嵐さんがうなずく。

「遺書じゃないといいんですが。」

( 中略 )

たしかに、菊地さんのベッドには明かりがついていた。カーテン越しなので、ほかの患者さんの迷惑になるほどではないが、起きているのなら声をかけざるをえない。

「菊地さん、眠れませんか。」

がん告知の衝撃で、どうかわたしが九九ができないことを忘れていきますように、と祈りながら、カーテンを少しだけめくって、声をかける。

「ああ、山本さん。」

菊地さんはベッドに起きあがった。

「横になっていらしてください。眠れませんか。」

「よかったよ。気になってたんだ。大丈夫？」

菊地さんのほうがわたしを気遣う。わたしはとっさにごまかそうとした。

「なんのことですか。」

「きみ」

菊地さんは声をぐっとひそめた。

「もしかして、九九ができないんじゃないのかい？」

わたしはこたえられなかった。でも、それが答えだった。

「そうか。でも、そんなこと、気にしなくていいよ。だれでも苦手なことはあるよ。」

菊地さんは、ベッドの脇に立つわたしの顔に、少しでも近づこうとするかのように、腰からのびあがった。

「それより、それでも看護師になるなんて、すばらしいことだよ。よく努力したんだね。すばらしいよ。」

すばらしい。

九九ができないのに。

わたしはなかなか菊地さんの言葉のみこめなかった。

ずっと知られたくなかった。だれにも知られたくなかった。知られたらきつと言われる。

弥生ちゃんも捨て子だから、九九ができないんだ。

「だれにも言わないからね、心配しなくていいよ。孫にもごまかしておいたからね。わたし以外はだれも知らないからね。」

菊地さんは、手にしていた黒い手帳を持ちあげた。

「こんなものを書いてみたんだけどね。」

手帳を開き、ページをちぎったらしい紙片をわたしに差しだしてきた。

ふたつに折られた紙をひらくと、ひらがなでなにやらびっしり書きこんであった。【ウ】

「気に障ったらわるいんだけど、九九をひらがなで書いたんだよ。九九つてね、こうやってくりかえし唱えておぼえるしかなくてね。たいへんだけどね。でもできたほうがいいよ。ただおぼえるだけのことだから。」

いんいちがいち、いんにがに、いんさんがさん……

小さな小さな字が几帳面きちょうめんにならぶ。

「これを書いてくださったんですか。」

「いや、余計なことだとは思ったけどね。」

「わたしのために。」

④老婆心らふしこころでね。じじいだけど。」

「今日、菊地さんが寝てないってききました。準夜勤の看護師から。」

「昼間は出入りが多いからね。家内もいるし、夜になるのを待ってたんだよ。わるいねえ。それじゃあ看護師さんに心配かけちゃったな。」

「遺書書いてるんじゃないかって。」

「遺書か、なるほどな。そりゃそうだ。」

わたしと菊地さんは顔を見合わせてわらった。

「ああ、泣かないで。字がにじんじやうから。」

菊地さんの言葉にはつとすると、いつの間にか、紙がぬれて、四の段の字がにじんていた。【エ】

※5 万年筆で書いたんだ。」

涙が紙に落ちていた。⑤わたしは、自分がわらいながら、泣いていることに気づいた。

「ありがとうございます。」

自分の声なのに、とても遠くにきこえた。

出典 中脇 初枝『わたしをみつけて』

※1 深夜勤……深夜から朝方にかけて勤務すること。

※2 転移……がん細胞が、最初に発生した場所から別の臓器や器官に移動して、増殖すること。

※3 準夜勤……夕方から深夜にかけて勤務すること。

※4 眠剤……睡眠を引き起こして持続させる薬の総称。

※5 万年筆……毛細血管現象を利用して、インクをペン先に送って書く筆記具。

問一 傍線部①「わたしはこういうこともはすきじゃない」とありますが、その説明をした次の文の [ ] に当てはまる箇所を、解答欄に  
合うように、本文中から十八字以内で抜き出さない。

「わたし」とは違って、 [ ] から。

問二 傍線部②「男の子がわたしを見上げる。菊地さんも枕からわたしを見上げる」とありますが、二人が「わたし」に向けた視線には、  
どのような感情が読み取れますか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 挑戦      イ 期待      ウ 軽蔑      エ 催促

問三 傍線部③「ずっとなにか書いていらっしやるようで」とありますが、「菊池さん」が書いていたものについて説明した次の文の空欄に当てはまる語句を、空欄内の字数制限に従って答えなさい。

菊池さんは、九九のできない X (三字以内) のために、 Y (十三字以内) 夜になるのを待って、紙に Z (八字以内) 書いていた。

問四 次の一文は、本文中の【ア】～【エ】のどこに入れるのが適当ですか。最も適当な箇所を選び、記号で答えなさい。  
わたしもやっておけばよかったと思う。

- 問五 傍線部④「老婆心でね」とありますが、「老婆心」の説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 高齢女性に特有の何にでも首を突っ込みたがる態度のこと。
  - イ 親切すぎて不必要なことにも世話を焼きたがる態度のこと。
  - ウ 高齢男性が高齢者特有の行動を皮肉を込めて表現したこと。
  - エ 加齢によって性別の境界が曖昧になってしまう様子のこと。

問六 傍線部⑤「わたしは、自分がわらいながら、泣いていることに気づいた」とありますが、「泣いている」理由として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 菊池さんの検査の結果が「大腸がん」であったうえに、眠らずに遺書を書いていると聞き動揺してしまったため。
- イ がん告知の衝撃で「わたし」が九九のできないことを忘れた様子の菊池さんに、思わずほっとしてしまったため。
- ウ 「わたし」は九九ができないことをだれにも知られたくなかったが、菊池さんに知られて混乱してしまったため。
- エ 菊池さんは九九のできない「わたし」を責めるどころか、誰にも知られずに覚えられるよう気遣ってくれたため。

【四】 次の(1)・(2)に答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

(1) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【漢文】

陳勝者陽城人也。字涉。陳涉少時、嘗與人

傭耕。輟耕之壟上、悵悵久之、曰、「苟富貴、無相

忘。傭者笑而応曰、「若為傭耕。何富貴也。」陳涉

太息曰、「嗟乎、燕雀安知鴻鵠之志哉。」

【書き下し文】

陳勝は、陽城の人なり。字は涉。陳涉①少き時、嘗て人と与に傭耕す。耕を輟めて壟上に之き、悵悵すること之を久しくして、曰く、  
陳勝は陽城という町の人である。 作業の手を止めて丘の上に行き、しばらくの間(自分の境遇を)悵み嘆いて

「苟くも富貴となるも、相忘ること無からん。」と。傭者笑ひて応へて曰く、「若傭耕を為す。何ぞ富貴とならんや。」と。  
たとえ富貴の身となつても、 お前は人にやとわれて農耕をしている。どうして富貴の身となろうか。

陳涉太息して曰く、「嗟乎、②燕雀安くぞ鴻鵠の志を知らんや。」と。

ああ、ツバメやスズメにどうしてコウノトリやハクチョウの志がわかるうか。

※1 陳勝……人名。のちに秦国が滅亡するきっかけとなる反乱を起こした。後の「陳涉」も同一人物。

※2 字……子が成人したときに親が本名とは別につける呼び名。

※3 傭耕……人にやとわれて田畑で耕作する。

※4 傭者……陳勝と一緒にやとわれている人。

※5 燕雀……ツバメやスズメなどの小さな鳥。

※6 鴻鵠……コウノトリやハクチョウなどの大きな鳥。

問一 二重傍線部「若為傭耕」に、【書き下し文】を参考にして返り点をつけなさい。

問二 傍線部①の「少」と同じ意味で使われているものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 少額    イ 少女    ウ 少量    エ 少佐

問三 傍線部②「燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんや」について、ある生徒が内容を次のようにまとめました。【X・Y】には

【漢文】の中からあてはまる語句を抜き出して書きなさい。また、【Z】には二十字以内で適切な内容を考えて書きなさい。

「燕雀」は本文中の【X】のことをたとえており、また、「鴻鵠」は【Y】のことをたとえています。

この故事から、この言葉は「【Z】(二十字以内)」ことのたとえとして使われています。

(2) 次の和歌を読んで、後の問いに答えなさい。

A 見渡せば山もとかすむ水無瀬川夕べは秋となに③思ひけむ

後鳥羽院

B 心なき身にもあはれは知られけり嶋たつ沢の秋の夕暮れ

西行法師

問四 傍線部③「思ひけむ」をすべてひらがなで現代かなづかいに書き改めなさい。

問五 A・Bどちらの和歌も現代語訳すると同じ句末で区切れます。第一句から第四句のうちどこで区切るのがよいでしょうか。  
一から四のうち、適当なものを漢数字で答えなさい。

【五】 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑥の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ書き改めなさい。

- ① 消息をタつ。
- ② 公園をサンサクする。
- ③ 結果をスイソクする。
- ④ 手間を省く。
- ⑤ 生活状況を把握する。
- ⑥ イメージと著しく違う。

問二 次の①～③の（ ）には、番号ごとに同じ漢字が入ります。例を参考にして、当てはまる漢字をそれぞれ答えなさい。

【例】（ ）期（ ）会 ↓ 答えは「二」

- ① 右（ ）左（ ）
- ② （ ）材（ ）所
- ③ （ ）業（ ）得

問三 次の①～④の意味の通る文にするには、あとのア～オのどれを入れたらよいですか。それぞれ記号を答えなさい。

- ① （ ）料理の数々が並び、招待客の期待が高まる。
  - ② 受験生の誰もが、（ ）ばかりの落ち着きようだ。
  - ③ 観客の皆さん、（ ）演奏を楽しんでください。
  - ④ 急用のため、（ ）会合への出席を取りやめる。
- ア 心ゆくまで      イ 心もとない      ウ 心ならずも      エ 心づくしの      オ 心にくい

問四 次の①～③の傍線部を、それぞれ正しい敬語に言い換えなさい。

- ① 祖父がお会いしたいと言つております。
- ② 市役所に行く道を聞きたいのですが。
- ③ お客様のご都合はどうですか。

〔問題はこれで終わりです〕



# 国語解答用紙

※印の欄には何も記入しないこと

一 14点

3 問一

4 問三

3 問二

4 問四

気持ちが強いから。

分かる。

二 28点

3 問一

A

3 問二

4 問三

3 問四

4 問五

3 問一

三 24点

3 問一

わたしとは違って

3 問二

3 問三

X

3 問四

Y

3 問五

3 問六

から。

四 18点

2 問一

若為備耕

2 問二

3 問三

X

3 問四

3 問五

3 問六

五 16点

1 問一

①

2 問二

②

3 問三

③

4 問四

④

5 問五

⑤

6 問六

⑥

合計

受験番号

※ 合計

※ 五

※ 四  
問三

※ 四  
問二四五

※ 三  
問三

※ 二  
問二四五

※ 二  
問五

※ 二  
問二三四

※ 一

これから放送による聞き取りのテストを行います。

はじめに、解答用紙を出して、受験番号を決められた欄に記入してください。

問 10秒

次に、問題用紙の1ページを開いてください。

問 2秒

四角1は、放送を聞いて質問に答える問題です。桜井章一さんの著書『「頑張らない」から上手いく』の一節を読み、次にその内容についていくつかの質問をします。文章は一回しか読みませんので、必要に応じてメモを取ってもかまいません。約一分後に開始しますので、問題用紙や解答用紙に不備があった場合には、試験監督に申し出て交換してください。

問 1分

それでは、始めます。

問 2秒

多くの親が、自分の子どもに「優しい人間になってもらいたい」と思っていることでしょう。「優しい人」というのは、「いい人」と言い換えてもいいかもしれません。

しかし、普段から親が優しさだけを求めていると、子どもは上辺だけ「優しさ」を身につけるようになります。

上辺だけの優しさを身につけた子どもは、「好かれない」「よく見られたい」という気持ちの一部分がとても強くできてきます。

つまり上辺だけの優しさというものは、演技でしかないのです。親が求めるいい子を演じるために優しい子を演じているのです。

親が子どもにいい子を求めるのは、実は親自身がいい人に見られたいという気持ちが強いからでもあるのです。その子が本当に優しい子なのか、それとも演じているだけなのかは目を見れば分かります。

演じているだけの子は目をそらした時に本心が表情に表れます。本当に優しい子は目をそらしても優しいままですが、演じている子は目をそらした瞬間に情のなさ、冷たさみたくないものが表情に表れます。

さらに優しい子の中には、自分が弱いがために人の頼み事を断ることができず、なんでも「いいよ、いいよ」と受け入れてしまう子がいます。

一昔前に「ノーと言える日本」というのが流行りましたが、この場合は「ノーと言えない子ども」です。親とすれば自分の子どもがそんなタイプであれば、「ノー」と言える強さを持つてほしいと思うはずですが。

当たり前のことですが、やはり嫌なことは「ノー」と言える強さは人間が生きていく上で必要です。

「ノー」と言えない子どもの中には、それが自分にとって損なのか、得なのか、そんな損得勘定ばかりしているために「ノー」と言えない子がいます。

「ノー」と言うと、嫌われるんじゃないか、そのために結局損してしまうんじゃないか？」

そんなふうについて思ってしまうからです。そのような子どもは、親のほうもたいてい「いい人」志向で、損得勘定の強いタイプです。親が損得勘定だけで生きていけば、子どもも知らず知らずのうちに損得に囚われた考え方になってしまふのです。

何事もそうですが、子どもについて物事を正すのであれば、まずは親の側がしっかりと正すべきではないでしょうか。

問 3秒

それでは質問にうつります。質問は二回繰り返し返します。解答は全て解答用紙の決められたところに記入してください。

問 3秒

問一 筆者は、「優しい人」を言い換えるとどんな人だと言っていますか。

問一 筆者は、「優しい人」を言い換えるとどんな人だと言っていますか。

問 15秒

問二 筆者は、親が自分の子どもに「優しさ」を求めるのは、どのような気持ちが強いかからだと言っていますか。  
解答欄に合わせて答えなさい。

問二 筆者は、親が自分の子どもに「優しさ」を求めるのは、どのような気持ちが強いかからだと言っていますか。  
解答欄に合わせて答えなさい。

問 15秒

問三 筆者は、本当に優しい子なのか、演じているだけの子なのか、どうすれば分かると言っていますか。  
解答欄に合わせて答えなさい。

問三 筆者は、本当に優しい子なのか、演じているだけの子なのか、どうすれば分かると言っていますか。  
解答欄に合わせて答えなさい。

問 15秒

問四 この文章の内容に合わないものを、次の1・2・3・4中から一つ選び、数字で答えなさい。

1 ものごとを損得勘定で考えない子どもは、人から頼まれたことをなんでも受け入れてしまう。

2 自分が嫌だと思ふことに「ノー」と言える強さは、人間が生きていく上で必要なものである。

3 親が自分の子どもに優しさだけを求めすぎると、子どもは優しくていい子を演じるようになる。

4 親が損得勘定だけでものごとを考えていると、その子どもも親のように損得ばかりを考える。

問四 この文章の内容に合わないものを、次の1・2・3・4中から一つ選び、数字で答えなさい。

1 ものごとを損得勘定で考えない子どもは、人から頼まれたことをなんでも受け入れてしまう。

2 自分が嫌だと思ふことに「ノー」と言える強さは、人間が生きていく上で必要なものである。

3 親が自分の子どもに優しさだけを求めすぎると、子どもは優しくていい子を演じるようになる。

4 親が損得勘定だけでものごとを考えていると、その子どもも親のように損得ばかりを考える。

問 15秒

これで放送によるテストを終わります。あとの問題が続けて解答してください。